

令和3年8月定例教育委員会

日時 令和3年8月4日（水）
午前10時～午前11時30分

1 開会

○足羽教育長

おはようございます。ただいまから令和3年8月定例教育委員会を開会いたします。

2 日程説明

○足羽教育長

それでは最初に教育総務課長から、本日の日程説明をお願いします。

○谷口教育総務課長

本日は、議案4件、報告事項5件の合計9件となります。御審議のほどよろしくお願いたします。

3 一般報告

○足羽教育長

それでは、まず私から一般報告をさせていただきますが、まずなにより、今話題になっております入江選手、ボクシングで日本初、そして鳥取県初の金メダル獲得ということで、本当に大きな感動を運んでくれたなというふうに思います。人口最少県鳥取でも、夢を持って希望を持って進めば、その夢が叶う。そうしたことを多くの子どもたちにも是非伝えて、子どもたちが「この鳥取でも夢を持って進んでいける」と思えるよう、学びや教育活動に繋げていけたらというふうに思っております。また、それ以外にもたくさんオリンピックでの活躍もありますので、是非子どもたちにいい発信ができればというふうに思います。

前回7月7日、定例教育委員会を開催しまして、ちょうど大雨の日で、山陰道も通れなくなるなど、委員の皆さまにも本当にご苦勞をおかけしました。あれから1ヶ月弱ですが、本当にこの1ヶ月はいろんなことが凝縮された1ヶ月でありました。まず、7月7日以降からの大雨被害が、災害対策本部が開催されるなど、前半は東部、中部が、それから後半は西部が水に浸かるなど、本当に記録的な状況でありました。また、その被害状況を、今日は別途報告、説明させていただきますが、学校や教育施設でも、水が溢れ出て斜面を下り落ちるとか、あるいは天井からの漏水があるとか、一部そうした被害があったようですので、可能な範囲で修繕をしながらの対応となりました。ただ、教育活動には大きく支障が出るようなことはございませんでした。

また、新型コロナウイルス対策についても、また後で説明をととは思いますが、夏休みに入っていくに向けて、去年の反省も踏まえて、夏休みの過ごし方や注意喚起等の通知も7

月12日、13日に発出をしましたが、それ以降が大変な状況になりました。7月14日に西部で、福米西小学校、淀江小学校を皮切りに、東部地区でも感染者が出るなどし、また、7月15日以降は、ご承知のとおりデルタ株による感染急拡大が続いております。そんな中で、これも話題になりましたが、高校野球の米子松蔭高校の対応等もございました。このことについても、また後で報告をしたいと思います。

それから、ワクチンの職域接種も今進められつつありますが、国からのワクチン供給が停止している中で、鳥取大学さんの枠の中に、東部地区の県立学校の教職員の希望者を含める形で、順次進めているところでございます。ただ、なかなか枠が埋まらないこともあって、教育委員会事務局も残り枠を使わせていただいて、希望者は接種するというふうな動きに入っているところでございます。

1年前の7月は、15人が月間の感染者数でしたが、今年度はなんと293人と、もう10人単位、20人単位での感染が進んでおります。現在は、全県下に特別警報が出されていることもありまして、学校のほうも、中学生の体験入学ですとか、密になるような状態が想定される行事は中止や延期としております。また、部活動のほうも、対外試合は一旦止めようということで、全国大会に出るといようなケースの場合は、これは感染対策をしっかりとやるというふうな対応をしているところでございます。

そんな中の7月9日には、日野高校の創立20周年記念式典に、森委員さんに出席いただきました。どうもありがとうございました。その後、それと並行して、同窓会が100周年ということで記念式典がありまして、こちらのほうには私が行かせていただいて、お祝いの言葉を伝えたところでございます。

それから、7月13日には、中国5県の教育長初の顔合わせということで、オンライン会議を開催いたしました。島根県は7月11日から、新田教育長から野津教育長へと代わられましたし、山口県も4月から繁吉新教育長になられ、私も4月からの新教育長でしたので、オンラインで顔合わせの会をしたところでございます。

また、7月15日には、同じように全国都道府県教育委員会連合会総会がオンラインで開催されましたし、7月27日には、私が委員に入りました全国学力・学習状況調査の専門家会議の中で、全国学調の今後の在り方等を議論していくことになっておりますので、議題に沿っていろいろ地方の実態や県の状況等をお伝えしながら、この全国学調と、本県でスタートしているとっとり学調がうまくかみ合うような形になっていけばという、そんな提言を今後していきたいというふうに思っております。

7月30日には、県の教育審議会を開催いたしました。高等学校の在り方、特別支援学校の在り方について、いよいよ答申に向けた最終整理ということで、全体会の中で報告をしたところでございます。

8月2日には、そこに書いておりませんが、高校生議会が予定をされておりました。鳥取東高校や鳥取西高校、あるいは青翔開智高校や米子松蔭高校等々から参加が予定されておりましたが、この新型コロナの爆発的感染によって、残念ながら中止となりました。

そして、8月3日、鳥取県の図書館大会、図書館協議会等との連携でやっているものですが、「図書館をカラフルな学びの場へ」という合言葉を元に、これもオンラインで開催をしたものでございます。私からは、以上でございます。

4 議事

○足羽教育長

続いて、議事に入ります。本日の議事録署名委員は、若原委員と森委員にお願いします。よろしくをお願いします。

○足羽教育長

ではまず、林次長から、議案の概要説明をお願いします。

○林次長

それでは、議案の概要説明をさせていただければと思います。

議案第1号は、鳥取県教育審議会学校等教育分科会特別支援教育部会委員の任命についてでございます。こちらにつきましては、現委員が令和3年8月末で任期満了になることに伴いまして、再度の任命についてお願いさせていただくものでございます。

議案第2号につきましては、公立学校教職員の懲戒処分についてでございます。公立学校教職員に非違行為があったため、その対応を諮らせていただくものでございます。

議案第3号は、令和4年度鳥取県立高等学校募集生徒数についてでございます。これは、平成4年度に入学する県立高校の各学校の募集生徒数について決定をさせていただくものでございます。

議案第4号につきましては、鳥取県立学校管理規則の一部改正についてでございます。こちらにつきましては、各年度の募集生徒数に伴いまして、学級数減による該当校のその年度の収容定員を改めていくということで、改正させていただくものでございます。ご審議をよろしくお願いいたします。

(1) 議案

○足羽教育長

それでは、議案第1号及び第2号は、人事に関する案件ですので、非公開で行うこととしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、非公開で行うこととします。関係者以外、退席をお願いします。

【議案第1号】 鳥取県教育審議会学校等教育分科会特別支援教育部会委員の任命について
(非公開)

【議案第2号】 公立学校教職員の懲戒処分について (非公開)

○足羽教育長

それでは、これより公開して、進めさせていただきたいと思います。議案第3号の説明をお願いします。

【議案第3号】令和4年度鳥取県立高等学校募集生徒数について

○酒井高等学校課長

おはようございます。高等学校課の酒井です。よろしく申し上げます。議案第3号、令和4年度鳥取県立高等学校募集生徒数について別紙のとおり議決をお願いします。1頁をご覧ください。高等学校名、学科名、募集生徒数ということで順番に書いております。昨年と変更はございません。

2頁をご覧ください。昨年と変更がないということですので、全日制では3,844人、定時制課程では220人、通信制課程では約160人を募集生徒数といたします。以上でございます。

○足羽教育長

学級減等の影響は出ていない年になりますので、変更なしで、来年度の募集生徒数ということになりますが、いかがでしょうか。

はい、では議案第3号は、提案のとおり決定させていただきます。

【議案第4号】鳥取県立学校管理規則の一部改正について

○足羽教育長

では続きまして、議案第4号の説明をお願いいたします。

○井上教育人材開発課長

議案第3号の募集定員の確定によりまして、全体の収容定員が変更されることとなります。令和4年度の募集定員の変更はないということだったんですけども、令和2年度、3年度の定員減により令和4年度まで影響を受けますので、全体としての収容定員の減少が継続します。ということで、このような収容定員になるということで、提案させていただきます。

○足羽教育長

具体的には、1頁の鳥取商業、八頭、智頭農林、倉吉農業、米子東、ここが学級減等の、あるいは収容定員の変更に伴っての影響が令和4年度に出るので、全体の収容定員の数字がこちらの変更になっています。よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございました。それでは、議案第4号も提案のとおり議決させていただきます。ありがとうございました。

(2) 報告事項

○足羽教育長

では、続きまして、報告事項に移りたいと思いますのでよろしく申し上げます。

それでは、報告事項のアについてお願いいたします。

【報告事項ア】令和4年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験（第一次選考試験）結果及び第二次選考試験の実施方法について

○井上教育人材開発課長

令和4年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験の第一次選考試験を、6月20日、27日に行い、昨日、8月3日に合格者を決定し通知をしましたので、その状況について報告をいたします。

小学校教諭につきましては、志願者数443名のうち、一次免除者を含め、合計308名を二次選考の対象者といたします。特別支援学校教諭につきましては65名、養護教諭につきましては29名、中学校教諭につきましては合計で141名、高等学校教諭につきましては合計で120名、合計で663名の者を二次選考対象者といたします。この二次選考対象者のうちには、併願をする者も含まれております。小学校教諭と中学校教諭を併願する者というのは、そのどのどちらにも上がっておりますので、実際に二次選考を受験する者というのが、その隣の数字になります。

県外実施をしている関係と、新卒県外者が例えば小学校教諭で153名とかなり大多数を占めている中で、今年度も適切に人物評価を行っていく。個人面接は、場面指導的な内容を含む形で、集団面接はグループワークの内容を含むような形で、しっかりと人物評価を実施していきたいと思っております。

昨年度の二次選考対象者は合計672名で、今年度は663名ということで、ほぼ同規模で実施をするということでご理解いただけたらと思います。

2頁、3頁のほうに、一次選考で実施を予定していた実技試験について、二次選考のほうに移行して実施をするということ、そして、8月28日から9月7日まで、記載の会場で二次選考を実施するというのを、対象者のほうには通知をしているということでご承知おきください。以上でございます。

○足羽教育長

コロナ禍で非常に危惧された教員採用試験ではありましたが、職員にそれぞれ頑張ってもらっていて、若干の変更はありながらも一次選考が無事終了して、昨日合否発表を本人たちにしたところでございます。なにかご質問がございましたらお願いします。

○中島委員

実技の内容の具体的なものは初めて見ました。弾き歌いがあったり、高校の先生は英語で歌ったり、こういうものがあるんですね。

○井上教育人材開発課長

年度当初に発表する実施要項のほうに、こういう曲名ですとかを記載しておりました。例年ですと、こういう変更がありませんので、教育委員会ではあまりお示ししなかったんですが、昨年度と今年度は、実技試験を変更しているという関係で記載しています。

○足羽教育長

二次選考は今月末からスタートしますが、受験生たちは2日間かな？

○井上教育人材開発課長

1日ないし2日です。併願で実技試験を受けなければならないというところで、2日にまたがってしまうような場合があります。受験者によって若干の違いがあります。

○足羽教育長

3頁の4に掲載しておりますが、8月28日（土）から9月7日（火）までという長丁場で実施をしていきますが、受験生は校種によって1日ないし2日ということです。事務局が大変なわけですけども。

○井上教育人材開発課長

どの学校種、どの受験者が、どの日のどの時間というところの計画は、いま作っているところでございます。

○中島委員

約600人の人が受けるということなんですね。

○井上教育人材開発課長

はい。624名が二次受験ということになります。

○足羽教育長

小学校、特別支援学校、養護教諭は開西会場での試験を行っており、その効果はやっぱり出ているというふうに思います。あとはしっかり人物評価に繋がるように、場面指導も含め、面接等でしっかり見て、いい人材を1人でも多く確保していきたいと思っております。

○森委員

本採用までの期間は1年間でしたっけ。

○足羽教育長

はい、条件付採用期間は。

○森委員

ここが非常に大事なところになりますね。学力的なところと合わせて、人物評価というところの課題が本当に。

○足羽教育長

新卒、新規採用で、初めて教壇に立って子どもたちの担任をするという方が6割もいらっしゃる。実際に子どもたちの前に立った時に、どんな発言だったり、どんな受けとめができるかというのは、最初の1年間がまず勝負の年になると思います。その辺りを決して

1人にはさせないような支援体制を、学校の中で作っていくということも教育センターのほうで組んでいただいているところです。本人に「頑張れ、頑張れ」とか、「やらないけん」じゃなくて、それを皆で導いていくような体制づくりというのも大事ななというふうに思っています。

○中島委員

今、森委員がおっしゃったのと同じことなんですけど、グループワークで5人から10人ぐらいをまとめて、30分ぐらいの時間の中で、例えば「人の話が聴ける、聴けない」とか、「自分の意見が言える」とか、「共同作業を楽しめる」とかというような項目をしっかりと立てて、5段階評価とかでその人間性を見ていくと、いい人間を見つけるというよりも、明らかに問題があるだろうという人をチェックするというような感じでの、そういうグループワークを試験の中に入れるというのを検討してみたらどうかなと思うんですけどね。

○井上教育人材開発課長

現在、個人面接のほうで具体的な指導を想定するような場面指導も見ようということ、集団面接のほうでグループワーク、これは4人で1つの題材について議論しながら進めていくということを取り入れて評価をするようにしております。その内容であるとか、視点であるとか、こちらのほうでしっかりやっていくということで対応していきたいと考えております。

○中島委員

それが機能していないと言うつもりは全くないんですけど、要するに、その手のものというのは準備できるじゃないですか。今、私立大学が、卒業生の進路の成果を競うという状況の中で、相当細かく面接の指導とかをしているじゃないかと思うんですよね。その時にやっぱり今おっしゃっているような内容だと、ある程度その中で対応ができちゃうという部分が、私は大きいんじゃないかなというのはちょっと危惧しているんですよね。それで要は、20分ぐらいでもいいかもしれないけれど、いろんな人と話をさせる中で、「ああ、明らかに自分の意見が言えない」とか、「自分の意見にこだわり過ぎる」とかというような人を見つけられるような方法というのを、探したほうがいいんじゃないかという思いで、ご提案をしたいと思います。

○井上教育人材開発課長

はい。内容につきましては、すぐにできるもの、できないものがあると思うので、検討していきたいと思います。

○鱸委員

集団でこういうワークをさせる時、評価するほうの体制はどういう形になっているんですか。評価して点数を付ける方は、どういう方が何人ぐらいで、通常どういうふうな構成でやっておりますか？

○井上教育人材開発課長

面接官が複数人、例年ですと3人です。

○鱸委員

それは全部、教師ですか。

○足羽教育長

だいたい3人から4人ぐらいの関係者で評価をしていく形になっております。

○鱸委員

いわゆるメンタルの問題とか、気づきというのは、やっぱりスクールカウンセラーとか、そういう心理学を専門にしている人はするどく評価できると思うんですよね。やっぱりその辺のことも考えて、もし厳密にやっついこうとすれば、教育委員会の関係者だけでは、少し難しい面があるのかなと思ったりするんですけどね。

○足羽教育長

どんな角度、視点で見ていくのか、その辺をやっぱり専門家といたしますか、ふさわしい方の中に入れてということですね。

○鱸委員

そうですね。1人メンバーを加えて、参考意見でもいいから、「今日のどうでしたかね」というような一言、参考的な意見が言える人も、その評価の中に入れられてもいいんじゃないかなと思ったりしますね。

○若原委員

面接で人物を見抜くというのは、なかなかのことだなあと。企業みたいに何回も面接を繰り返すことができれば、ある程度見抜けるんでしょうけど、問題のある人を採用までなんでチェックできないのかなというのは、いつも思うんですけど、やっぱりチェックしきれないところがありますよね、どうしても。

○井上教育人材開発課長

鋭意努力したいと思います。

○佐伯委員

その審査する方は、ずっと動きを見ていてチェックするだけなんですか。それとも誰か1人でも、その中に介入するんですか。ずっとやらせておくと、ある程度の流れの中で、自分をうまく見せたいとか、合格したいと思っているわけなので、ある程度演じている部分もあったりすると思いますが、そういうところで、「ちょっと、こういう展開にしてみてください」とかということは言えるんですか。

○井上教育人材開発課長

試験内容については、詳細に申し上げることは難しいかと思っておりますけれども、集団面接にグループワークを含む、そしてグループワークの内容を評価するということは、受験者の方には明示をしております。ですので、グループワークの状況に関しまして、集団面接のほうで確認していくということは、ここ近年取り組んでいるところです。

○足羽教育長

ご質問があった部分については、しておりません。評価者が介入をしていく、導くことは、グループによって温度差ができる可能性が出てまいりますので、試験官は介入はしません。

最初に中島委員さんから提案のあったような内容について、新たなものを創造するような作業は、なかなか普通のやり取りでは見えないような部分が見えてきたりすることがあると思いますが、去年からのコロナ禍で、そうした活動がなかなかしづらくなったというふうなこともあったりします。皆で何かを作り、協議する場面の様子をしっかり見て、というのは非常に効果があると思いますので、今後どう組み込んでいけるか、また検討してみたいと思います。

年々、内容については検討をしながら、意義のある選考試験にしていきたいと思っておりますので、また今後ご意見がありましたらいただきたいと思っております。

【報告事項Ⅰ】令和4年度鳥取県立高等学校推薦入学者選抜募集人員及び県外生徒募集実施校等について

○足羽教育長

続きまして、報告事項Ⅰについてお願いします。

○酒井高等学校課長

失礼します。報告事項Ⅰ、県立高校の推薦入学者選抜の募集人員及び県外生徒募集実施校について、報告いたします。

1頁をご覧ください。まず、推薦入試の募集生徒数ですが、推薦入試の募集人員は、昨年度から4名増えて651名ということになります。募集生徒数は先ほど議決いただきました。変更はございません。そして、この4名というのは、2の「推薦入学者選抜における変更」のところを見ていただきますと、八頭高校で、昨年は16名だったところを20名に増やすということで、4名増ということでございます。八頭高校は、例年人気がありまして、昨年も22名受験しております。それで次のページになりますが、県外募集もしております、県外からの受験者も増えている。そこに、学校の同窓会が民間寮を作りまして、県外からの募集も進められそうだとということで、4名増ということになっております。

2頁をご覧ください。県外生徒の出願を認める高校ですけど、岩美高校が令和3年度の7名から12名に増やしています。八頭高校は今申しましたが、5名から8名というふう

に増やしております。合計で62名が70名ということで、県外募集も若干ですが増えております。岩美高校の場合も、今まではバレーボール部を中心に集めていたんですが、陸上部等にも力を入れていきたいということ、特に但馬地区の生徒を受け入れたいということでございます。

昨年度受験者があった高校ですけど、岩美高校に6名受験者がございました。八頭高校に4名、倉吉農業高校に4名、鳥取中央育英高校に4名、日野高校に7名ということで、日野高校は定員5名に対して7名受験ですので、県外から募集しても受からない者が出るということも生じました。

3頁をご覧ください。県外から通学する生徒の出願を認める高校ですが、昨年度から2校増えまして、米子南高校と、米子工業高校、この部分が増えました。学科とかコースでいいますと、鳥取工業の制御情報、倉吉総合産業の機械、鳥取中央育英の体育といったところで増えております。ただ、これは県外に住所があつての通学ですので、特に中部地区とかはなかなか通学といっても難しい部分があるかもしれません。

実績は、令和3年度は智頭農林高校で1名ございます。その前の年は、岩美高校と境港総合技術高校で4名。地理的に、岩美ですと但馬の辺り、境港ですと美保関の辺りから住所を移動せずに通学するというところでございます。

4頁以降は、今説明したものを一覧にしたものでございます。以上でございます。

○足羽教育長

入学者選抜の募集人数ですとか、県外からの通学生の状況についての説明でした。いかがでしょうか。ご質問等がありましたらお願いします。

○中島委員

県外から入学できる学校の情報というのは、どこかで、まとめて見られるところはあるんですか。

○酒井高等学校課長

ホームページにまとめて見られるところを作っておりますし、また、特に中山間地域の高校を強化しておりますし、島根県が「地域未来留学」ですので、鳥取県は「鳥取ふるさと留学」ということで、今は動画等も作成しまして、鳥取東高を卒業された山下さんという大変人気なクリエイターの方にも監修してもらい、それもアップしたところでございます。

○中島委員

それは検索で引かかるんですかね。最近いろんなニュースとかを見ていると、今まで我々はなんとなく、県外からの入学というと、但馬とか、島根県東部というようなイメージがあつて、もちろんそれがメインエリアなのは確かなんですけど、林業に興味があつたからという理由で、智頭農林高校に神奈川県から来た人がいたりとかというものもありましたよね。それ以外にも意外と、中学までの自分とは全然違う場所でリフレッシュしたいという思いで高校を選ぶという人が、けっこういるみたいじゃないですか。そういう人が例

えば、自分は滋賀県に住んでいるんだけど、正直いって滋賀じゃない、どこでもいいから行きたいとかというふうに、パーツとインターネットで検索した時に、そういう人はどのように引っかけられるだろうと思うんですね。

○酒井高等学校課長

まさにインターネット等で引かかるように、今年度はコマーシャルとかもこれから行おうと思っています。インターネット検索をしているとコマーシャルが出たりして、そういうところで、「鳥取県は県外募集をやっています」ということがアピールできるようにしていきたいと思います。

実際、日野高校に今年来た生徒の中には、インターネットを見ていて引かかったと。とても少人数で、1学年の生徒数が少ないという状況が、「これは自分に合っているんじゃないか」ということで、来てくれた生徒もおります。やはり生徒数が少ないということ、我々はどちらかというとな否定的に捉えるんですけど、都会の生徒にとってみると、それは逆に魅力と映る部分もあると思います。そこに甘えてはいけませんので、この少人数でできる、どういうことをやっているのか、どういう力をこの学校が身に付けさせてくれるのかということ进行全面にアピールしながら、県外募集も進めて参りたいと考えております。

○中島委員

おっしゃるとおりだと思います。もう一回自分を、と思っている子にとって、鳥取県の小ささというのは、随分安心感があると思うので、その安心感で惹きつけて、内容をよくよく見ると、「けっこういいんじゃない」というふうに進んでいければいいと思います。是非ちょっとその辺のところも、お話を聞くと随分意識していただいているように思いますので、進めていっていただきたいと思います。

○足羽教育長

今年はラジオはありますか。

○酒井高等学校課長

あります。これも計画中です。

○足羽教育長

中学生に人気のラジオ番組で取り上げてもらうようなこともしています。

○酒井高等学校課長

スクールオブブロックという番組でして、昨年までヒゲダンさんとかも出ておられましたが、その方が学校に突撃で取材をされて、生徒の生の声を拾っていくんですけど、たまたまヒゲダンさんと日野高校の校長先生が知り合いでしたので、その部分をアピールされて、とても反響が大きかったです。

今年の場合は、そうやって県外から来た生徒たちが、どんなふうに変ったかとか、何

を思っているかということについて、番組で発信をしていただくようなことを、今考えているところでございます。

○足羽教育長

来てくれた生徒たちからの後輩たちへの発信などもあるといいと思いますね。「鳥取に来て良かったよ」というようなものがクチコミベースで広がるというのも1つの手かもしれないですね。

○酒井高等学校課長

ただ、ラジオ局さんの考え方もございますので、そのあたり調整していきたいと思いません。

○足羽教育長

ラジオに限らず、あの手この手で一般向けの発信を進めてください。

○森委員

私たちの採用とちょっと似ていますよね、人集めなんで。思わぬところから応募があったということもたまにあるんですが、親御さんがチラシを見たとかで、子どもに「ここを受けてみたら」というふうに繋がる場合もあるんですよ。なので、親御さん世代についても1つのターゲットゾーンとして見ると、ちょっと幅が広がって、そういうルートもあるのかなと。

鳥取県は平井知事が今とても有名なので、観光とかでも検索されることが多いと思うんですよね。なので観光のところから、教育委員会のほうにも繋がって、「こういう教育県ですよ」ということをアピールしていくとか。今の鳥取県がフィットしているところから紐付けをしていくと、結果的に子どもたちのルートにいく場合もあるのかなとはちょっと思います。

○酒井高等学校課長

ありがとうございます。

○足羽教育長

はい、ではよろしいでしょうか。

それでは、残りの報告事項につきましては時間の関係上、省略することとしたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、以上で報告事項は終わりたいと思います。

各委員の皆様方のほうから、何かありましたらお願いしたいと思いますが、とりあえずよろしいでしょうか。

では、ありがとうございました。本日の定例教育委員会は、これで閉会といたします。次回は、9月2日（木）午前10時から開会したいと思います。よろしいでしょうか。では、よろしくお願ひいたします。以上で、本日の日程を終了させていただきます。ありがとうございました。